

トピック まなづるの海
アオリイカ産卵終盤、孵化も順調



岩沖の産卵礁にやってきたアオリイカ(左)と産み付けられた卵のう(右上)、卵のうの中の孵化する前の稚イカ(右下)【2020年6月30日撮影】

貴船まつりをはじめ町内のさまざまなお祭りも中止になり、異例の夏となってしまった今シーズンですが、海の中では生物たちが、いつもの夏と変わらない元気な様子を見せてくれています。

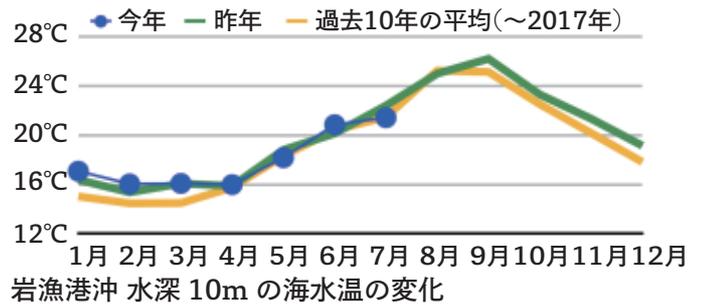
春先から夏にかけて、産卵期を迎えたアオリイカが沿岸の浅い海へやってきて、海藻の茂みなどに卵を産みつけます。岩ダイビングセンターでは、毎年春先に海中に木を沈めて産卵礁を設置していますが、今年もたくさんのアオリイカが卵を産みにやってきました。多い時には数十匹のアオリイカが一度に集まることもあり、その光景は圧巻です。

卵は、卵のうと呼ばれる豆の鞘のような白くて細長い袋状の膜に5個前後ずつ包まれています。鞘の長さは10cmほどで、産卵したては透明ですが、ゆらゆら波に揺られているうちに、白から薄茶色へ変化し、しばらくすると、鞘の中には小さなイカの姿が確認できるようになります。

産卵から20日前後で卵が孵化して、稚イカが飛び出します。体長1cmほどの稚イカは、孵化直後から上手に泳ぐことができ、墨も吐くことができます。外敵が多い海で身を守るための能力を備えて出てくるのですが、残念ながら、ほとんどの稚イカは他の生物に食べられてしまいます。厳しい環境を生き抜いて少し成長したアオリイカが、今後、海岸や港内でも見られるようになります。ぜひ探してみてください。



港を泳いでいたアオリイカの子ども、体長4cmほど(岩漁港にて採集)



まなづるの漁獲情報
冬魚も…バラエティに富んだ魚種、なぜ？



ムロアジ(アカゼムロ)

真鶴町漁協では、4月から続く長い不漁が7月に入ってからも続いていました。連日の大雨により、沿岸域では海水も茶色く濁り、魚も沖に出てしまうようです。大雨の影響が治まると定置網に入る魚も増えましたが、水揚げされた魚種は、驚いたことにアンコウやクロシビカマス(スミヤキ)など冬を代表する魚でした。沿岸で強風が吹くと、風向きによっては沿岸水が沖へ移動し、真鶴のように深海に近い場合は、深場の水が上昇することがあります。横浜国大の調査でもこの現象は確認されており、真鶴周辺の沿岸では、浅場と深場で海水の入れ替えが頻繁に起きていると考えられます。アンコウなどは今の時期は深場にいるはずですが、今回大雨をもたらした低気圧による強風の影響で、上昇してきた深場の水に乗って浅い海へやってきたのかもしれない。夏の定置網にも時々入ることがあるそうです。

冬の魚が上がったかと思えば、また別の日には温暖な海で生息する魚の水揚げがありました。深海にも黒潮にも影響を受けている真鶴の海ならではの水揚げです。今回紹介するムロアジは、真鶴周辺ではアカゼムロと呼ばれ、体に入った黄色の帯が美しい魚です。暖かい黒潮流域の魚で、真鶴ではたまにしか上がりません。黒潮の流路に近い伊豆諸島ではよく取れますが、鮮度が落ちるのが早いので、くさやなどの加工品の原料となります。「新鮮なものが手に入るのであれば、刺身は絶品!」とのおすすめ通り、刺身にしておいしくいただきました。<情報提供:真鶴町漁協>

真鶴の海況
大雨で河川増水、プランクトンにも影響

7月の真鶴沖の海水温は21.4℃でした。6月よりも0.8℃高く、2017年までの過去10年の平均とほぼ同じ値で、平年並みの水温です。昨年9月から今年の3月までは例年より高い水温だったのに対し、4月以降は平年並みの水温が続いています。

大雨が続いた7月ですが、降水量が多いと海的环境にも影響が出ます。ふだんから河川水は、植物プランクトンの増殖に必要なリンや窒素などの栄養塩類を陸域から供給していますが、大雨で河川が増水すると栄養塩類の供給も増加します。これまでの調査により、真鶴沖でも雨で河川水の流入が増えた後に、植物プランクトンが増殖することがわかっています。今回の大雨では珪藻類が大増殖し、沿岸や港内でも海の色が緑色になっているのが確認できました。<情報提供:横浜国大 臨海環境センター>

- 町立遠藤貝類博物館 8月中旬～9月のイベントスケジュール
- 8月19日(水) 海のミュージアム「磯の生物観察会/「海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料、要予約】
 - 8月22日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料、要予約】
 - 9月6日(日) 海のミュージアム「磯の生物観察会」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料、要予約】
 - 9月19日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/「海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料、要予約】
- 【開催中～8/26迄】写真展「知られざる 真鶴の海 2020」
町立遠藤貝類博物館、【要入館料、真鶴・湯河原町民無料】
※各イベントの詳細は、町立遠藤貝類博物館HPまたは各ちらしをご覧ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロード
ができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。